

キャラクター名
桐生 秀雅

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ ウロボロス	ワークス	UGN支部長D	カヴァー	ダンサー
	オプショナル	ブラム=ストーカー	年齢	36	性別
覚醒	渴望	衝動	妄想	初期侵食率	44 %
出自	結社の一員	経験	大転落	邂逅	アルフレッド・J・コードウェル

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	11
精神	3	0	0			3	戦闘移動	16
社会	0	1	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	2	1
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
デモンズシード: 攻撃誘導	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
[28] 業師/スペシャリスト	P	N		
アルフレッド・J・コードウェル	P 誠意	N 不信任		
ダンス・オン・ザ・ステージ	P 幸福感	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
赤色の従者	1	5	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: HP (10+Lv×5) の従者を召喚								
声なき者ども	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 召喚される従者が+Lv体								
血の絆	2	3	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: シナリオ終了時まで従者存在、Lv回/1S								
ショウタイム	4	4	セット	視界	単体	自動	-	
効果: 自身を含まない攻撃の判定- (Lv+1) D								
ミスディレクション	2	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 対象: 範囲系を対象: 単体化、Lv回/1S								
原初の黒:隠された世界	1	1D10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果: 対象: X系を対象: 単体化、1回/1S								
原初の黄:攻撃誘導	3	5	セット	視界	単体	自動	-	
効果: 自身を含まない攻撃の判定-Lv×2D								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

UGNX市支部の支部長兼百千(ももち) 歌劇団X市劇場をひとりて経営する俳優&ダンサーである。元々は百千歌劇団の一団員であったが、心の持ちようだけでオーヴァードに目覚め、比較的古参であることからついには支部長を任せられるまでに至った。現在でもステージの上で演劇に興じることを何よりも愛し、UGNの仕事をもつぼってX市劇場の団員である「ローズ」「鈴音(リンユウ)」「なでしこ」の三人の歌劇の稽古にかまけるが、自分にふさわしい"ステージ"と巡り合えると確信すると彼女らとともに現場で踊り歌い演じることを何よりも望む。「敵の背後で狂ったように公演をこなすだけ」という戦闘スタイルは他でも類を見ないものであり、一度彼と任務を共にしたエージェントは彼のことが頭から離れなくなり、何度も彼と任務を共にする同じ支部のエージェントやチルドレンはこれがかきラストバトルは盛り上がりないと口を揃えて言う(本人談)。

ももとは日本では宝塚歌劇団や劇団四季と肩を並べるほどの規模を誇り、古典的レビューから流行りに乗った即興劇まで劇とつくならばなんでもジャンルレスに行く百千歌劇団に中学卒業後から転がり込んだ根っからの役者である。しばらくは芽が出なかったが、当時の歌劇長に勧められた参加した初舞台において歌とダンスで自分を表現し、観客を喜ばせる喜びを知る。才と好みと運に恵まれた彼は瞬く間にスター街道を登りつめ、百千におけるトップスターの座をほしいままにした。しかし、幸運な日々はそうも続かない。連日の無理が祟り、とくに自身の足にはガタが来ていたことに彼は気づけなかった。医師の診断によると身体のオーバークースによる膝靭帯の損傷。一生付き合っていくかなければならない怪我であり、ステージに間合い戻ることなど不可能。車椅子の利用を推奨されるほどであった。そして死んだように余生を過ごしていたある日、UGNという組織に声をかけられた。なんでも、とあるウイルスの保有量が常人の比ではない上、様々なシンドロームに適性がある稀人であるらしく、オーヴァードとやらになれる素質に恵まれていたらしい。その時彼のスカウトを担当していたコードウェル博士に「またステージに立ちたくはないかい? オーヴァードの力は君に驚異的な治癒力と強靭な肉体を与える。キミほどの素質があれば『踊り歌い人々を魅了したい』と渴望するだけでその靭帯の怪我が癒え、前以上に歌劇に没頭することができるだろう」と諭された。その言葉を聞き終わる前に彼は決意に満たされていた。その時こそが彼のオーヴァード人生の始まりである。いとも簡単にオーヴァードに覚醒した彼は、完全復活を果たした。痛みと違和感の一切が消え、ブランドを感じさせない程完璧にフリをこなせた彼は少々の上機嫌さと、生物学者への大きな感謝からUGNとの契約書にサインをした。

現在の彼は百千歌劇団が買い取ったX市の一劇場で、自分が手塩にかけて育てている三人の従者とともに顔と芸名を隠して個人公演を行っている。同じ血液から生成されるはずが、依代とする身に着けるネックレスによって所作に個性が現れる「ローズ」「鈴音(リンユウ)」「なでしこ」の三人のダンスは徐々に成長を見せており、新人の「ルージュ」も姉弟子達に追い付きつつあり、彼の個人劇団は市内でも人気を集め始めている。そして彼女らの技術の上達の一環として行わ